

授業の特徴

「実習を軸にしたカリキュラム」

将来の目標に向かって、充実したカリキュラムから選び、学ぶ。



「実践力が身に付く授業のタイプ」

知識と技術、そして経験を培い、子どもの成長と自分の成長を学ぶ。



保育者には、確かな知識や経験が求められます。
子どもの成長、自分の成長のためにしっかりと学びに取り組みましょう。



講義

現場で必須な知識を学び取る。

講義では、幼稚園教諭・保育士になるために必要なことを学びます。科目によって授業の進め方に違いはありますが、ただ必要なことを聞くというだけでなく、友だちと一緒に関わりながら模擬体験を行ったり、ディスカッションを通していろいろなことを考えたりしていきます。幼稚園教諭・保育士になるために、先生も学生も一緒になって取り組んでいます。



実技・演習

笑顔と個性を引き出せる保育者を目指す。

保育者になるために理論と実技の学びは必要不可欠なものです。本校では音楽表現・運動・造形表現などいろいろな科目が開講されており、実践や体験を伴った形で、授業内のみならず、自宅での練習や学校外での体験学習もあり、努力をした分、必ず技術的な成果も得られます。また、学生一人ひとりが各自の実力を把握した上で、各自の得意分野を見つけそれを磨いていく努力も怠ってはいけません。同時に苦手なものを遠ざけずに取り組むことも大切です。入学してから2年後に出会う子どもたちの明るい笑顔と、健康的な日々のために、保育者として様々な方法で自己を高めていくことは大変重要なことと言えます。バランスのとれた保育者を目指しましょう。頭も身体も心もフル回転させて2年間の学びに取り組んでほしいと思います。



教育・保育実習

子どもにふれて、子どもから学び、成長する。

本校では入学して間もない時期である11月の教育実習を初めに、2年間で5回の実習をそれぞれ2週間行います。入学時には多くの学生が期待と不安を抱いて授業に臨み、自分の志した保育者のイメージを影らませながら、各自が目標に向かって学生生活を送っています。実習では学校で学んだ理論と保育現場で得た経験を統合しながら、また、交互に積み重ねながら、保育者への手ごたえを実感しつつさらに学びを深めていきます。実習をきっかけとして就職にも直接つながるものであり、保育者としての資質はもとより、社会人としての礼節も求められます。学生一人ひとりの生き方そのものが幼い子どもたちの前で試されるといっても過言ではないでしょう。その意味で本校の実習指導は子どもと関わる楽しさの中にも、社会人としての基本的態度など身に付けるよう、厳しさを組み込んだ形で展開しています。



教育課程表(カリキュラム)

幼稚園教諭・保育士養成科								
科目区分	必修・選択	授業科目	第1学年		第2学年			
			年間授業時数	単位数	年間授業時数	単位数		
A 教養科目	必修	法学(日本国憲法)	30	2		30(2)		
		体育理論	15	1		15(1)		
		体育実技	30	1		30(1)		
	選択	外国語コミュニケーション	30	2		30(2)		
		情報機器の操作	30	2		30(2)		
		健康科学			30	2	30(2)	
B 教育の基礎理解に関する科目 保育の本質・目的に関する科目	必修	レクリエーション理論	30	2		30(2)		
		レクリエーション実技			45	1	45(1)	
		保育原理I	30	2		30(2)		
		教育の原理と制度	30	2		30(2)		
		子ども家庭福祉	30	2		30(2)		
		社会福祉	30	2		30(2)		
C 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の対象の理解に関する科目	必修	子ども家庭支援論			30	2	30(2)	
		社会的養護I			30	2	30(2)	
		教職・保育者論	30	2		30(2)		
		幼児教育・保育心理学I	30	2		30(2)		
		子ども家庭支援の心理学	30	2		30(2)		
		子どもの理解と援助	30	1		30(1)		
D 教育の基礎理解に関する科目含む 保育の内容・方法に関する科目	必修	子どもの保健				30	2	30(2)
		子どもの食と栄養	30	2		30(2)		
		保育指導法			30	2	30(2)	
		特別支援の理論と方法			30	1	30(1)	
		教育課程と保育計画			30	2	30(2)	
		保育内容総論	30	1		30(1)		
E 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	保育内容演習I(健康)			30	1	30(1)	
		保育内容演習I(人間関係)			30	1	30(1)	
		保育内容演習I(環境)			30	1	30(1)	
		保育内容演習I(言葉)			30	1	30(1)	
		保育内容演習I(表現)	30	1		30(1)		
		乳児保育I	30	2		30(2)		
F 領域に関する科目 大学が独自に設定する科目 保育の内容・方法に関する科目	必修	乳児保育II			30	1	30(1)	
		子どもの健康と安全			30	1	30(1)	
		障害児保育	30	2		30(2)		
		社会的養護II			30	1	30(1)	
		子育て支援			30	1	30(1)	
		教育方法論	30	2		30(2)		
G 教育実践に関する科目・ 保育実習	必修	幼児理解と教育相談	30	2		30(2)		
		健康	30	1		30(1)		
		言葉	30	1		30(1)		
		音楽表現I	30	1		30(1)		
		音楽表現II			30	1	30(1)	
		造形表現	30	1		30(1)		
H 教育実践に関する科目・ 総合演習	必修	音楽II	30	1		30(1)		
		教育実習	90	2	135	3	225(5)	
		保育実習I	90	2	90	2	180(4)	
		保育実習指導I	30	1	30	1	60(2)	
		保育実習II			90	2	90(2)	
		保育実習指導II			30	1	30(1)	
I 領域に関する科目 保育に関する科目	選択必修	保育実習III			90	2	90(2)	
		保育実習指導III			30	1	30(1)	
		教職・保育実践演習			30	2	30(2)	
		保育原理II			30	2	30(2)	
		児童家庭福祉II			30	2	30(2)	
		臨床心理学			30	2	30(2)	
卒業に必要な最低科目 時数・単位数	必修	保育内容演習II(造形)			30	1	30(1)	
		保育内容演習II(生活)			30	1	30(1)	
		保育内容演習II(音楽)			30	1	30(1)	
		保育内容演習II(運動)			30	1	30(1)	
		音楽III			30	1	30(1)	
		音楽(ピアノ)			30	1	30(1)	
		言語II			30	1	30(1)	
		環境			30	1	30(1)	
		リトミック・音楽理論	30	1		30(1)		
		必修科目 時数・単位数	1005	48	705	26	1710(74)	
		選択科目 時数・単位数	60	3	645	23	705(26)	
		卒業に必要な最低科目 時数・単位数					1920(83)	

実習指導の目標

1 教育実習

幼稚園
1年生
11月・2週間

初めての实習で、将来への決意を再確認しよう。

幼稚園でどんな仕事をするのか学びます。子どもとの接し方に慣れ、子ども同士の関わりを観察。幼稚園教諭の補助的役割を経験しながら学ぶべきことの認識を深めます。

2 保育実習

保育所(園)
1年生
2月・2週間

今自分が学ぶべきことを、実習の場で知ろう。

保育所(園)でどんな仕事をするのか目で見学します。子どもに接して気持ちを理解。仕事の厳しさ、やりがいを実感。保育士を目指す原点を自覚します。

3 教育実習

幼稚園
2年生
6月・2週間

子どもたちと触れ合いながら、実践力を高めていく。

幼稚園で実際に子どもたちの指導にあたり、より実践的な力を磨きます。全体をとらえ指導する役割を体験。事前の準備や勉強の重要性を知る機会でもあります。

4 保育実習

施設
2年生
夏期・2週間

様々な援助技術を体得し、人間への理解を深める。

児童福祉施設で子どもたちと生活をともにし、適切な援助の仕方を学びます。状況や人の行動等に即して対応することで、理解がより深まり、自己啓発の機会にもなります。

5 保育実習

保育所または施設
2年生
11月・2週間

実習の総仕上げ。将来への自覚と責任を身に付けよう。

保育所またはその他の児童福祉施設を各自で選択。総仕上げとして、成果を試す最後の実習です。具体的な計画を立て、集団で動き、子ども一人ひとりの動きを考えながら総合的な指導を体験。保育者としての責任感がわいてきます。